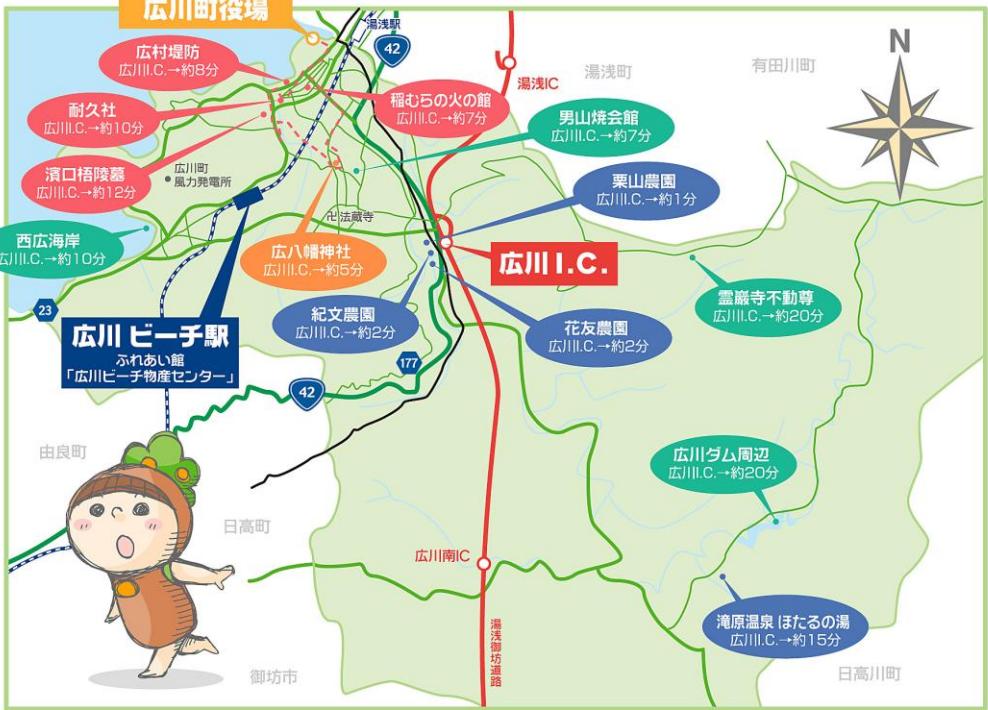


おーじとしづくとななっちの あの町この村ぶらり旅



人を救う心”先人が教えた防災の知恵。

“人を救う心”先人が教えた防災の知恵。



**海水浴は
西広海岸で。**

JR新大阪駅から、JRさくらのくに線特急（オーシャンアロー・スパーク）しおなまどに乗り、JR湯浅駅で降車。ここまで約90分。後続の紀勢本線に乗り換えてJR広川駅へ。約2分。

松原JCT 阪和自動車道 和歌山方面
↓ 和歌山IC(約50分)
↓ 広川IC(約30分)
↓ 高野街道(国道42号)



広川町に
春を告げて。

毎年11月第1日曜日に、
広川町民体育馆とその周辺で行われる「広川町ふるさとまつり」では、文化展やお茶席、チャリティーバザー、やフリーマーケットのほか、餅投げ大会などが行われ、多くの人々で賑わいます。



秋の訪れ、 ふるさとまつり。

当地で小学校によるボタル保全活動を行っており、5月下旬からはゲンジボタルが乱舞する幻想的な風景が見られます。



平成17年に完成した広川町風力発電所は、夏は南東の風、冬は海から吹く北西の風で電気を作ります。広川町風力発電所で得られる電気では、年間約500世帯の電気がまかなえ、CO₂削減量は年間1660トンにもなるそう。石油も石炭も使わないクリーンエネルギーなのです。



も珍しい座像の不動尊
唐立不動明王が岩間に
に鎮座されています。
毎月28日に縁日があり
毎年1月28日は護摩供養
が行われ賑わいます。



山奥の靈巖寺、
不動尊が鎮座。
れいがんじ

詳しい内容の紹介、お問い合わせは、庄川町役場 [0737-63-1122] もしくは和歌川郷町村委会へ

“住民百世の安堵を圖れ”



第二章 耐久社建立 「文武を励まし、人材を育成」



©お話を聞かせてくださいました、語り部サークルの崎山光一さん

第一章 安政大地震津波 「稻むらに火を灯せ！」



安政元年（1854年）和歌山県全域を襲った安政南海大地震の時、大津波が広村（現広川町）を襲いました。梧陵は自らも津波に巻き込まれながらも奇跡的に助かり、未だ行方が分からぬ村人のために自分の田にあった藁の山、稻むらに火を投じ、高台にある広八幡神社への避難路を示す明かりとしました。その結果、村人の9割以上を救つたのです。

その後数ヶ月も経たない内に、次の津波に備えるため、梧陵は私財を投じて広村に大堤防を築きました。この土木仕事を村人を雇つことで、津波の被害で消沈していた村に活力を取り戻すという意味も込められていました。

村のために惜しまず投じた私財、

咄嗟の判断力と

実行力、そして勇

気…。のちに小泉

八雲は梧陵を「生

ける神」と賞賛し

ました。

第三章 晩年、そして現代へ 「死してあとに残る名誉」

晩年、子息に家業を譲った梧陵は、宿願であったアメリカへと渡りますが、体調を崩し、二ヨードックの病室で永眠。享年66歳でした。

讣報を知った友人、福沢諭吉、

勝海舟らは、横浜で梧陵を惜しむ人々に対し告別の会を開き、広村へと送り届けました。村では約4000人

の人々が梧陵へ哀悼を捧げたそうです。

悪戯好きで、村の若者を驚かして楽しむような一面を持ちながらも決して警沢をせず、

会社のため、村のため、尽くした梧陵。

彼の功績は、現在、小・中学校の教科書にも記されています。梧陵の精神が、これらを生きる若い世代に受け継がれていくことを願っています。

津波防災教育センター
津波をリアルに体験できる数々の装置や、防災体験室など、防災に関する学びの館。特に3Dシアターでは、津波の恐ろしさやメカニズムを立体映像で体感できます。

ひども訪れたい施設です。
地震や津波など、防災の大切さを学ぶためにぜひ立ち寄りましょう。



濱口梧陵 はまぐちごりょう

実業家、社会事業家、政治家でもある濱口梧陵は、文政3年（1820年）、紀州有田郡広村（現在の広川町）の元禄時代より醤油醸造業を営む大店の分家に生まれ、七太（しちた）と名づけられ、12歳で本家（濱口儀兵衛家）の養子となつて、鉄子（現在の千葉県）に移ります。のちに、嘉永6年（1853年）、34歳で家督を継ぎ、第七代濱口儀兵衛（ぎへえ）となりました。

慶応4年（1868年）には、商人出身では異例の抜擢を受け、紀州藩勘定奉行（のちの出納長に相当）に任命され、紀州藩・和歌山県経済の近代化に尽力。

明治12年（1879年）には、和歌山県の初代県議会議長に就任。明治18年（1885年）にかつての夢だった世界旅行に赴くも、アメリカで病没しました。享年66歳の生涯でした。

稻むらの火の館

濱口梧陵記念館・津波防災教育センター



濱口梧陵記念館
濱口梧陵邸の敷地内に残されている生家を活用して、一般公開。梧陵にまつわるさまざまな資料を展示します。立ち寄り、晚年まで生い立ちから、最後まで辿ります。

この施設は、平成19年開館当時の首相、小泉純一郎氏（なだよ）が「ちなんに、稻むらの火の館」という碑の手書きをしたのは、梧陵が「火の手をいたした」といふ意味で、この入館者10万人突破しているんだ。

休館日 毎週月曜日 平成19年開館当時の首相、小泉純一郎氏（なだよ）が「ちなんに、稻むらの火の館」という碑の手書きをしたのは、梧陵が「火の手をいたした」といふ意味で、この入館者10万人突破しているんだ。

入館料 一般／500円 高校生／200円 小中学生／100円 団体（5人以上）申込みが必要

お問い合わせ 0737-63-1122



「稻むらに火を灯せ！」
実行力、そして勇気…。のちに小泉八雲は梧陵を「生ける神」と賞賛しました。

「稻むらに火を灯せ！」

開館時間 午前10時～午後5時（GWは午後4時まで）
休館日 每週月曜日 平成19年開館当時の首相、小泉純一郎氏（なだよ）が「ちなんに、稻むらの火の館」という碑の手書きをしたのは、梧陵が「火の手をいたした」といふ意味で、この入館者10万人突破しているんだ。

入館料 一般／500円 高校生／200円 小中学生／100円 団体（5人以上）申込みが必要

お問い合わせ 0737-63-1122

詳しい内容の紹介、お問い合わせは、広川町役場【0737-63-1122】、もしくは和歌山県町村会へ。

神が守る神聖な地、
山茶花の境内に集う人々。



広八幡神社は、樹齢数百年の木々が茂る小山を背景に鎮座しています。建立は明らかではありませんが、誉田別命(応神天皇)・足仲津彦命(神功皇后)・氣長足姫命(仲哀天皇)を祭神として祀っており、室町時代の本殿(内一棟は江戸時代)や楼門を始めとした国重要文化財を7点保有しています。また、この地は濱口橋陵が村人を避難に導いた場所でもあり、高台に建つてゐるため、昭和に起つた南海大地震でも被害が少なかつたとされています。

宮司である佐々木公平さんは語ります。「地震や津波が起つた際、この地区の人々は自然とこの地に集まります。それは、避難というだけでなく、情報交換や、離ればなれになつた家族との待ち合わせの場所としても有効なんですね。橋陵の教えは、今でもこの地の人々の心に根付いてゐるんでしょ

陸軍大將荒木貞夫氏との親交



汗かき
地藏寺

2012年NHK大河ドラマの主人公、平盛が野鶴の詰で際
法皇が熊野詰での際
この地で休息。老翁(白狐の化身)が献上した
靈泉の水で体力を回復した
その後、返礼に建立されたそう。
進達され
た十二面観音さまのお姿は庄容。せひ立ち寄り
てご仕職のお話を聞
かれてみては。



寄り道、歴史の道、 広川の古道散策。

男峯・女峯

向かって右側が男峠、左側が女峠と呼ばれます。男峠は険しいけれど近道。女峠は緩やかだけれど遠道。りとされ、かつて藤原定家などは男峠を行ったとされています。峠を分ける中央には、徳本上人の名号碑(みちわけの道標)が立てられています。



縛られ堪
大味の木々を頬

そりと立つお地蔵さま。
行方不明の人を探す
靈験のあるお地蔵さ
まと伝えられており
お地蔵さまを縛るて願
をかけ、見つかれば荒
縄を解いてあげる…
というものの実際、何
人が見つかったという
事例、痔を治してくれ
るともいわれています。



河瀬王子社 今もなお、社地
が歴然と残つて
いる唯一の地。



詳しい内容の紹介・お問い合わせは、庄川町役場【0707-92-1126】かしくは和歌山県警察本部

みかん狩り農園



紀文農園

10月中旬～12月上旬まで、大人500円(お土産付1,000円)、こども300円の入園料でみかん狩りができます。産地直売所は遠方からも来客する常連さんたちで賑わいます。



栗山農園

10月上旬～12月中旬まで、大人600円、こども500円の入園料(※30名以上の場合大人500円)でみかん狩りが楽しめます。



花友農園

10月中旬～12月下旬まで、大人600円、こども400円の入園料でみかん狩りが楽しめます。本場の有田みかんが食べ放題なのが嬉しい。



広川町では、ほかにも
ブルーベリー狩りができるわ!
詳しくは、広川町役場まで
お問い合わせください。



和歌山を代表する フルーツ、みかん狩りを体験。

愛媛県と常に生産量で首位を争う、和歌山県の代表的な特産品であるみかん。和歌山で栽培されているみかんは、正式には「温州みかん」といい、その中でも有田市、有田川町、湯浅町、広川町を中心に栽培されている「有田みかん」は、トップブランドです。

みかんには、ビタミンC、ビタミンA、クエン酸、食物繊維やシナノフリンなど、いった体に良いとされる成分が多く含まれ、風邪の予防や、近年では発ガン抑制効果があるとの発表もされているほど。和歌山県内に住んでいたたなうも、冬になると食べる機会の多いみかんですが、収穫するのは初めて。広川町では、3つの観光農園でみかんの収穫体験ができ、県内外からの観光客に安心して体験してもらえる工夫もされています。和歌山のみかんには、農園の方々の真心も、ぎつぎつ語り詰まっているんですよ。ちなみに、たなうちオススメのみかんの食べ方は、上の写真のようにパクッと割って皮を剥き、実を4つほどに割って、口いっぱいに頬張る…。これが一番美味しい食べ方です。



温泉&お宿

滝原温泉 ほたるの湯



春は広川ダム周辺の花見客が多く、5月下旬からは近くでホタル鑑賞が楽しめるところから、風情溢れる時間を過ごせると人気の温泉宿泊施設。

広川や庭園に面し、落ち着いた雰囲気でゆっくりくつろぐことができる客室と、弱アルカリ性低張性冷鉱泉の温泉(露天風呂、内湯など)が自慢です。

車でお越しの場合、湯浅御坊道路広川インターから国道42号を南下し、県道井関御坊線を約10分。



施設内では、地元の新鮮な食材を生かした各種懷石料理のメニューが味わえます。すぐそばにある滝原ふるさとふれあい公園には、フナやメダカなどが泳ぐ「親水池」、トンボやカエルなどが生息する「ビオトープ池」、ホタルの繁殖を観察できる「せせらぎ護岸」があります。

広川町の特産品&お土産特集



稻むらの塩

海水を釜で炊きあげた手作りの塩。広川町の高齢者グループが町の特産品にと製造を始めました。ミネラル満点ですよ!



有田みかんの
花の蜜

有田みかんなどの花の蜜をミツバチが採取してきた蜂蜜を、トーストやヨーグルトなどに一匙。



麹ジャム

珍しい麹ジャム。ふんわりとした麹の香り、ほんのり甘味が、ソフトチーズやお餅などに乗せて食べるのがオススメなんだって!

広川町産
ドレッシング

自然そのままの味を壊さないよう、保存料無添加で仕あげたドレッシング。ゆず、レモン、梅など豊富なバリエーションも楽しい。



ふれあい館「広川ビーチ物産センター」

広川ビーチ駅に隣接する、ふれあい館「広川ビーチ物産センター」では、ご紹介した加工商品をはじめ、地元で採れた新鮮な野菜・果物やお花なども販売しているわ。同じ棟に軽食が食べられる喫茶もあり、オススメはカツカレーだそうよ!



取材にご協力いただいた方に、この場を借りて厚く御礼申しあげます。

© 和歌山県町村会 企画の記事、写真、イラストなどの無断転載を禁じます。 企画に掲載しているデータは2011年12月現在のものです。

詳しい内容の紹介、お問い合わせは、広川町役場 [0737-63-1122]、もしくは和歌山県町村会へ。